

総括にあたっては中学生の声を聴くべきだ

広島平和記念式典への派遣中学生を3分の1にした問題

総務常任委員会審査の3日目。16日は、防災危機管理部と自治・市民環境部の議案が審査の対象でした。

防災危機管理部関係で私は、「安全・安心まちづくり推進事業」の中の「高齢者通話録音装置貸与事業」をとり上げました。昨日も市内で特殊詐欺被害が発生したようですが、貸与実績、モニター調査、今後の取り組み強化について質問しました。モニター調査期間には29世帯に貸し出したそうですが、通年では45世帯だったとのこと。私からはこの事業をもっと活用してもらうためPRに努めるよう要請しました。

「交通安全指導費」の中の運転免許証自主返納支援制度、消火栓の老朽化ホース支援については市民要望としてとり上げました。運転免許証自主返納支援制度については復活を求めたのですが、防災危機管理部長は自主返納と支援制度とはアンケート調査等で無関係だと重ねて主張、こうした高齢者の移動手段確保に向けて幅広く支援を考えて行くことが必要だと答えました。消火栓については、法律上の設置管理者と実際の運営について確認したほか、消防団OBなどが初期消火に活用できるようにホースなどの支援をすべきではないかと訴えたのですが、危険だから消防署員や消防団員など現役のプロ以外は使うべきでないと受け付けませんでした。

「非常備消防費」に関連して、「消防団による効率的な消防行事や訓練の見直し」の現状と今後についてたどしました。また、昨年の県消防大会などを例に挙げて、開催時期を猛暑の時期から動かすことなどを訴えました。答弁を聴き、ゆっくりではありますが、できるところから一つひとつ改革が進みつつあると思いました。今後もとり上げていきたいと思います。

自治・市民環境部の審査で注目したのは、広島平和記念式典への中学生派遣についてです。私は昨年度から派遣する生徒数を24人から8人に減らしたことについて、総括質疑に続いて追及、「戦争体験の共有がどうだったかだけでなく、派遣者を



減らしたことがよかったかどうか総括すべきだ。総括にあたって一番大事なのは主人公である中学生たちがどう思っているか」として派遣された中学生だけでなく、派遣された中学生のいない中学校の生徒たちなどからしっかりと声を聴くよう訴えました。

私の質問に続いて宮越議員が、「あそこは行かなきゃ分からない」「核廃絶をしなければならないことを子どもときから肌で感じてほしい」と始めたものだ。非核平和友好都市宣言に逆行する話じゃないか」と怒りの声をあげました。今後の市の動きに注目です。



【ノダケ】セリ科の多年草。漢字で「野竹」と書きます。最初、オオハナウドかと思いました。でも、違うなと思ったのは花の色と形です。茎の先端に暗赤色の小さな花をたくさんつけています。背丈は1.5mもありました。花言葉は「静かな情熱」。この花に初めて出合った場所は吉川区町田の池のそばです。

今年も花ロード
高田で開催されていた花ロードを見に行ってきました。今年は新型コロナウイルスの関係でどうなるか心配したのですが、例年と変わりなく花が並んでいて安心しました。
私が訪ねた19日は、ゆっくり鑑賞する時間がなく、坂井亮円さんの「さをり織り」展（写真）など2、3か所を見るだけで精いっぱいでした。
花ロードでは旧内山金物店屋上の花が楽しめだったので、今年から花は1階に下りて、外に並んでいました。



はしづめ法一の活動レポート

No.1978 2020.9.27

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六二五回

懐かしい再会

新型コロナウイルスの感染の心配があつて、入所している介護施設から母が外出できるのは通院などごく一部に限られています。ですから、外出できる日は母にとって、家族と会ったり、友達や親戚へ電話をかけたたりできる貴重な時間となります。

先日は入所している施設からそう遠くないところにある理容所へ行き、髪の毛を短く切ってもらいました。その日は、ちょうど議会の休会日でしたので、私が付き添いました。

車の中で、私がまず電話をしたのは愛知県に住む弟のところでした。弟には母が施設に入所したことを最近になって伝えたのですが、その際、母と電話で話をしたいと頼まれていました。

どうせ電話をするなら母の顔を見ながら話ができるようにと、スマートフォン（スマホ）を使ってテレビ電話をかけました。

弟はスマホでテレビ電話ができることをよく知らなかったようで、スマホの画面で母の顔を見るなり、「あら、かちゃだ、かちゃが出ています」と大喜びでした。そして、言ったのです、「かちゃ、元気かね、ツトムだよ。わかるかね」と。

母はニコニコしながら、「わかるこてや。おまん、いい顔してるな」と答えました。ほめられりや、弟も黙っていられます。「そりや、そうだこてね、おまんの子だもん」と言つて笑いました。

新型コロナウイルス感染症でたいへんな事態となる前から、母と弟は長く会っていませんでした。おそらくその期間は二年ほどになっていたかと思います。それだけに、母に弟の元気な顔を見せることは大きな励ましになると思っていました。テレビ電話では弟はもろろのこと、弟の連れ合いも出て、母に声をかけてくれました。

この日は秋らしいさわやかな晴れとなっていました。髪の毛を切ってもらい、施設

に帰ろうという時間帯になって、私の車を理容所入り口まで移動させているときでした。昔、牛飼いの仲間であったNさんとバツリ出会いました。

Nさんは私の顔を見るなり、「おばあちゃん、どうしなつたあ」と声をかけてくださいました。「おら、ばちやかね、ここにいるでね」と言つと、「まあ、うれしい」そう言つて、理容所に入り、母のそばへ急ぎました。

「おばあちゃん、わかんるこ」

母はその言葉にすぐ反応して、

「Nさんかね。おまん、きれいな顔してるね」

と言いました。

たぶん、母とNさんとは五、六年は会っていないと思います。Nさんはずっと母と話をしてみたいと思つておられたようです。Nさんは元々母親譲りのやさしい顔の持ち主ですが、再会した直後に顔をほめられ、ずっと笑顔でした。

久しぶりに会つたのですから、挨拶し、「はい、さようなら」というわけにはいきません。その後、待合所でお茶をご馳走になり、二人はおしゃべりを楽しみました。

母の目の前のケースの上には黄色や緑色のUFOカボチャが並んで置いてありました。最初、このカボチャの話で盛り上がりました。その後は、やはり思い出話です。

「おばあちゃん、カレー作つてくんなつたこてね。上手でいなつた。煮物の味付けもぴつたしだつたし……」

自分が作つた料理のことで次々とほめてもらった母は、照れながら話を聴いていました。

母とNさんは酪農家の妻として共通の苦労をしてきました。もちろん喜びも共通のことが多かったと思います。それだけにこの日の懐かしい再会は、母にとって、これまた大きな励ましとなりました。

上野議員も写真パネル使ってイノシシ被害対策の強化要求

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月16日(水)	9月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.053	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.050	0.050

私は総括質疑で鳥獣被害対策をとりあげましたが、18日の一般質問では、上野公悦議員もイノシシ被害対策をとりあげ質問を展開しました。

質問では大型の写真パネルを何枚も使って農道や農作物被害の実態や紹介しました。使用した写真は、上野議員の地元頸城区のものも1枚ありましたが、そのほかは吉川区河沢の江村町内会長さん撮影の写真でした。やはり、被害実態は写真に勝るものはないですね。訴える力が違います。上野議員は鳥獣被害対策実施隊の増員などを求めています。



市民プラザで水彩画展

市民プラザで開催されていた水彩画展を19日、観てきました。上越市内の風景や花、そして家族などを描いた素敵な作品が67点も出展されていました。

右の絵は「花ごよみ(8月)」と題した笹崎つや子さんの作品。夏の花ながら、やさしさに満ちた絵になっていました。

